

Beyond 5G 推進コンソーシアム 企画・戦略委員会
技術作業班（第2回）議事要旨

1. 日 時： 令和3年6月15日（火）13:30～14:45
2. 場 所： ウェブ会議（WebEx）
3. 出席者：
中村主査（NTT ドコモ）、
ビジョン作業班 小西リーダー（KDDI）、永田サブリーダー（NTT ドコモ）、
技術作業班 中村リーダー（富士通）、下西サブリーダー（NEC）、
WP5D 対応 Ad hoc 菅田主査（KDDI）、武次副主査（NEC）、
ほか、通信事業者、メーカー等、計 79 名
（事務局）総務省移動通信課新世代移動通信システム推進室
五十嵐室長、江原課長補佐、守屋係長、杉山官
4. 議事要旨
冒頭、会議開催に先立ち、中村リーダーから挨拶があった。

（1）前回会合（第2回）の議事要旨について
事務局から、資料1 B5G コンソーシアム白書分科会第2回議事要旨案について説明。

- （2）提案各社の説明について
計 11 者からユースケースからテクノロジーへの写像について説明を行った。
- 2.1 一般社団法人テレコムサービス協会
 - 2.2 国立研究開発法人情報通信研究機構
 - 2.3 日本電気株式会社
 - 2.4 華為技術日本株式会社
 - 2.5 ソフトバンク株式会社
 - 2.6 富士通株式会社
 - 2.7 スカパーJSAT 株式会社
 - 2.8 エリクソン・ジャパン株式会社
 - 2.9 KDDI 株式会社
 - 2.10 株式会社 NTT ドコモ
 - 2.11 住友電気工業株式会社

(3) ディスカッションについて

中村リーダー進行の下、ディスカッションを行う。主な意見は以下のとおり。

永田サブリーダー：2030年のユースケースを列挙してもらったが、現実的なものを列挙してもらうべきでないか。5Gの時にも、何でもできると謳っていたが中途半端な結果になってしまった。もちろん、夢を語ること、目標を高く設定することは大切なため、作業班の中でバランスのとれた議論ができると良い。

中村リーダー：確かに実現可能なことを話すことも重要だが、まずは2030年に考えられる技術や未来の意見を出してもらい、各業界からも活用可能な技術を紹介してもらえれば、深い議論になるのではないか。

KDDI 菅田氏：WP5Dでは、技術要素の定義、その数値化とIMTシステムに要求される最低要求条件、実現までの速度が求められる。今後議論する観点で一つの指標になると思う。今回の話を聞いて非常に膨大なシステムが必要だと感じた。現時点では、物理的に実現する想像がつかない。システムとして現実的な話をする 것도大切だと感じた。

ドコモ須山氏：システムが大きなものになり、機能も多岐にわたるため、技術作業班だけの話では収まらない。ビジョン作業班で専門家からの話を聞いた上で、どこまでを各作業班でやるのか範囲を確認したい。

中村リーダー：指摘のとおり、あらゆる項目について考えなければならない。白書で我々の認識をどのようなメッセージとして発信するか今後の議論で決めていきたい。

永田サブリーダー：作業班は最終的なゴールを明確化した上で議論した方が良い。ユースケースとテクノロジーのリストについてITU-Rを通じて議論していくため、要求条件も議論していくのか

ドコモ須山氏：ITU-Rと白書では表現の仕方が異なるため、それぞれに合わせた表現が望ましい。

中村リーダー：白書に盛り込む内容について広い範囲で議論し、その中からメッセージとして発信できるものに肉付けしていくようにすれば、白書として良いものになるのではないか。

下西サブリーダー：ITU-Rや白書に限定されることなく、議論の広げ方に日本の特有さが出ると良い。各提案企業の考えや提案の意図をくみ取ってまとめることが大切。

(4) その他

事務局から次回会合について連絡を行う。

以 上